

賛助会員名簿

旭光学工業株式会社	鈴木幸三郎	電気興業株式会社	萩原憲三
朝日新聞社科学部	高津真也	天文博物館	
アジア航空測量株式会社	柏木秀一	五島プラネタリウム	五島昇
アストロ光学工業株式会社	小松良基	東京精密測器株式会社	池辺常刀
岩波書店	岩波雄二郎	東京電力株式会社	木川田一隆
応用電気研究所	唐沢大介	東光通商株式会社	小幡三雄
オリンパス光学工業株式会社	中野徹夫	東北電力株式会社	平井寛一郎
笠井出版印刷株式会社	窪田達雄	東陽通商株式会社	奥村喜和男
梶原電気株式会社	梶原家富	ナルミ商会	村上俊男
カールツァイス株式会社	Johannes Maaz	日米商会	高野高之
関西電力株式会社	芦原義重	日本IBMデータセンター	佐田静夫
関東電気工業株式会社	関井忠夫	日本光学工業株式会社	白浜浩
九州電力株式会社	赤羽善治	日本鋼管株式会社	赤坂武
倉敷レイヨン株式会社	大原総一郎	日本出版貿易株式会社	望月正捷
恒星社厚生閣	土居客郎	日本平富士観光センター	
甲南カメラ研究所	西村中子	天文台プラネタリウム	坪井正
五藤光学研究所	五藤齊三	ファコム株式会社	竹島芳雄
金光教本部教庁	金光鑑太郎	早川電気工業株式会社	
三栄測器株式会社	丘山欽也	半導体技術部	馬場幸三郎
三・省堂	小倉正風	服部時計店	服部正次
島田理化学工業株式会社	実武夫	林建設株式会社	林米一郎
新電子工業株式会社	山本和一	毎日新聞社学芸部	角田明
住友化学工業株式会社	大谷一雄	丸善株式会社	司忠
誠文堂新光社	小川誠一郎	三鷹光器株式会社	中村義一
測機舎株式会社	西川末三	三井造船株式会社	田中繁松
ソニー株式会社	井深大	三菱重工業株式会社	磯貝誠
太陽社	弘田道淳	三菱電機株式会社	佐藤貞雄
谷村株式会社新興製作所	谷村貞治	ミノルタカメラ株式会社	田嶋一雄
中部電力株式会社	横山道夫	八洲測量株式会社	西村正紀
地人書館	上条勇	東京都葛飾区堀切2の37	佐藤綱雄

新賛助会員

岩井高干穂株式会社大阪支社 代表者 大隅義郎 大阪市東区北浜4の43

~~~~~  
 雑報  
 ~~~~~

日本学術会議中央選挙管理会第32回総会 標記会議が6月21日午前10時より開られた。本年3月16日に管理会委員が改めて委嘱されたので、今回の総会は委員長、各部の役員選挙を行った。委員長は伊藤正巳(東大法)、第4部の主任は本田雅健(東大物性・化学)、飯田修一(東大理・物理)、幹事は丸山儀四郎(東教大理・数学)、加崎英男(都立大理・植物)、選挙制度検討委員は大和英成(駒沢大・地理)が選出された。審議事項は次の通り。

1) 前期管理会からの申し送り事項、i) 選挙規則改正に関する意見——まだ色んな問題が未整理な状態なので、運営委員会(委員長と各部主任、代表幹事よりなる)に付託検討を加えた上で総会にかける、ii) 中央選管開会の際の定足数の件——前回同様、はっきり定足数をきめず、その都度考慮する、iii) 高等専門学校教員の資格認定の件——この問題は元来選挙制度検討委員会(学術会議会員と選管委員各8名づつ)に出された問題であり、昨年学術会議会員側の委員の任期がきたため、管理会に移送されたいきさつがある、今回この委員会が新しく発足したので、再びこの委員会に返送することにした。内容は高等専門学校教員にも国公私立大学教員と同じように、論文発表の時期に関係なく在職中は

研究者として認めることを求めたもの、2) 上中宗太郎選挙違反の件——総会で実質審議をすることは適当ではないので運営委員会に付託、但し、選挙権、被選挙権の停止に関する問題なので、決定する場合は最終的には総会にはかかること。(青木信仰)

1006年の超新星 エール大学のゴールドスタイン(Goldstein; A.J. 70, 105, 1965) および彼とマラヤ大学のホーペンヨーク(Ho Pen Yoke; A.J. 70, 748, 1965) は古い記録をしらべて、1006年に狼座に超新星が出現したらしいと述べている。彼はアラビア、シリア、ラテン諸国、中国、日本などの記録を調査し、新星の出現は1006年5月1日、この星は3カ月半の間きわめて明るく、その明るさは半月ぐらい。そして数年間見えていた。この位置は狼座のNGC 5882, $\alpha=15^h13^m4$ $\delta=-45^{\circ}28'$ (分点は1950) に近いあたりであるとしている。

日本の記録は神田茂氏の日本天文史料から引用しているが、これには権記、法政寺撰政記、日本紀略、明月記、吾妻鏡、百鍊抄、その他に多くの記録がある。たとえば藤原定家の明月記には「寛弘3年4月2日癸酉夜以降、騎官中大客星あり、熒惑のごとく、光明動耀、連夜正に南方に見る。あるいはいう騎陣將軍星変の本体、増光か」云々

この日付は太陽暦でいえば1006年5月1日、騎官というのは狼座あたりの27星で、そのあたりに見ない星があらわれ、火星のようで、明るく輝き、光にシンチレーションがあり、毎夜南に見えている、という意味で、騎陣將軍というのは単1星で κ Lup ($\alpha=15^h8^m$, $\delta=-48^{\circ}33'$, 分点1950) である。

また一代要記によると色は白青とある。

オーストラリアのガードナーとミルン(A.J. 70, 754, 1965) は210フット電波望遠鏡で波長11cm、ビーム幅8'でこの周囲を念入りに掃天した。 $\alpha=14^h59^m6$, $\delta=-41^{\circ}42'$, (1950, 0) に超新星の残蹟と思われる電波が出ていて、等強度曲線をかきことができた。この輪郭は中心が2つあって、2つの中心の間に強度極小のところがあるという。

ミンコフスキー(A.J. 70, 755, 1965) はパロマーの48インチでとった青と赤の乾板について、

$\delta=-34^{\circ}20'$; $\alpha=14^h19^m2$ から 15^h56^m1

$\delta=-46^{\circ}48'$; $\alpha=14^h16^m0$ から 15^h59^m3

また、103a-O にUG₁フィルターを組合わせた紫外乾板では

$\delta=-40^{\circ}20'$; $\alpha=14^h50^m0$ から 15^h24^m9

$\delta=-46^{\circ}48'$; $\alpha=14^h49^m0$ から 15^h26^m8 (すべて分点は1950年)

以上の範囲をしらべて超新星の残蹟らしい光学的天体

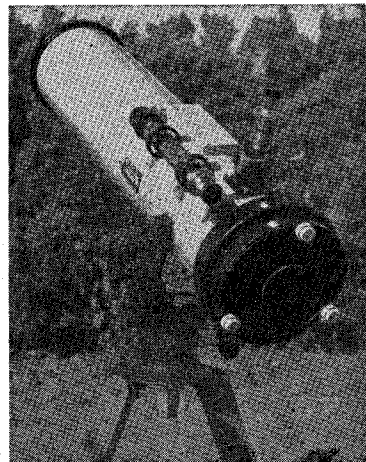
はないと述べている。またロジャース等の南天銀河のH α 輝線の星図で、この超新星の出たあたりをしらべてもH α 輝線の明るい天体は見あたらないという(下保)

プロトン・フレアー計画 IAU(国際天文連合) commission 10(Solar Activity)では、新しい太陽活動周期(No. 20)の上昇期に起ると予想されるプロトンフレアーを国際的協力のもとに研究することを決めた。この計画を“proton flare project”(PFP)と称し、1966年5月1日からスタートした。この時期を選んだ理由の一つは、太陽活動がまだそれほど活発でなく、惑星間空間の構造が複雑でないことと、もう一つは北半球、とくに観測施設が密に存在するヨーロッパ地方の天候が良好であることにある。

数あるフレアーのうち、とくに高エネルギー粒子を放出する“プロトンフレアー”は天文学者や地球物理学者にとって非常に興味のある対象である。プロトンフレアーは太陽面爆発の最も規模の大きいものであり、地球上あるいは惑星間空間に大きな影響を及ぼしている。また宇宙船に人間が乗り込む場合、生命にも危険を及ぼしかねない。したがって、プロトンフレアーの性質を知ること、さらに進んでそれを予知することは、今や差し迫った問題である。しかしプロトンフレアーに関する我々の知識はまだ不完全なものである。そこで今度の計画



カンコー天体反射望遠鏡



二十
糎
C
G
式
焦
点
距
離
二
段
切
換
天
体
反
射
望
遠
鏡

- ★ 天体望遠鏡完成品各種
- ★ 高級自作用部品
- ★ 抛物面鏡、平面鏡、軸外し抛物面鏡
- ★ アルミニウム鍍金
- ★ 電源不要観光望遠鏡(カタログ要30円切手)

関西光学研究所

京都市東山区山科竹鼻 TEL 京都 06 0057

は、一つでもよいからプロトンフレアーの発生を事前に予報し、できるだけ多くの観測所であらゆるデータをとって総合的に調べてみようとするのが狙いである。

具体的な観測内容は a) フレアーを起す活動領域の発達、とくにフレアー付近の磁場の発達状況 b) フレアー自身の H_{α} , white light での観測とスペクトル、電波、SID (sudden ionospheric disturbance) c) 飛翔体による惑星間空間の物理的状態の測定。d) 宇宙線 (DCA, 又は GLE), e) 地磁気嵐, オーロラ, である。

PFPP の組織は次のようになっている。シモン氏を主任として、フランスの Meudon 天文台が主体となる。世界各地に予報官が配置され、各々後にプロトンフレアーが起ると思う活動領域を予想し、シモン氏に報告する。シモン氏はこれらの情報を総合して、PFPP の警告を発し、それに基いて参加観測施設で、問題の活動領域を詳細に観測することになっている。日本では東京天文台と名大空電研究所が計画に参加している。予想屋の責務は筆者に課せられた。

この計画が成功裡に遂行され、多方面に亘るデータ

が得られたあかつきには、それらのデータが思い思いの出版物を通して報告されるのを防ぐため前記 Meudon 天文台がデータを統一して編集することになっている。

なお計画が行なわれる期間は6ヶ月以内で、その期間に期待通りの収穫があれば計画は終了するが、そうでなくても一応10月31日で打切り、翌1967年再び改めて行なう予定である。(甲斐)

1. ヘルワン天文台の74インチ望遠鏡 エジプト・ヘルワン天文台の74インチは、岡山、その他に同口径のものが5つあり、ヘルワンのは1963年完成したそうである。これはカイロからスエズに向かって、22kmの地点にある。ドームの直径は18m、ドーム壁面は、放熱に工夫をこらした独特の外観である。この74インチを使って、月面の温度放射の研究がなされていることが、サーリ (Saari) らによって報告されている。これは光電スキャンナーで、4450Å と10ないし12 μ の赤外部で、月面をこまかく走査したもので、多数の高温度点のマップを作っている。(下保)

西村製の

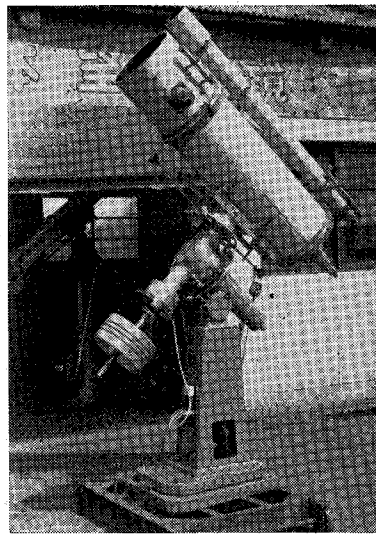
30cm 反射望遠鏡

下記へ納入して好評を博しております

- 米 ゴッダード・スペース・フライト・センター
ハインド J R短期大学
ムレ大学
- 英 オックスフォード大学
- スイス バーゼル大学

株式会社 西村製作所

京都市左京区吉田二本松町 27
電話 (77) 1570, (69) 9589



30cm 反射望遠鏡

ニュートン・カセグレン兼用

昭和41年6月20日

印刷発行

定価100円

編集兼発行人

印刷所

発行所

東京都三鷹市東京天文台内

東京都港区西新橋1丁目21番8号

東京都三鷹市東京天文台内

電話武蔵野45局 (0422-45) 1959

広瀬秀雄

笠井出版印刷社

社団法人日本天文学会

振替口座東京13595